

# ハンドボール

特集

第60回全日本高校選手権大会

第22回全国小学生大会

第14回ジャパンオープントーナメント

10 5

OCT.2009・No.504



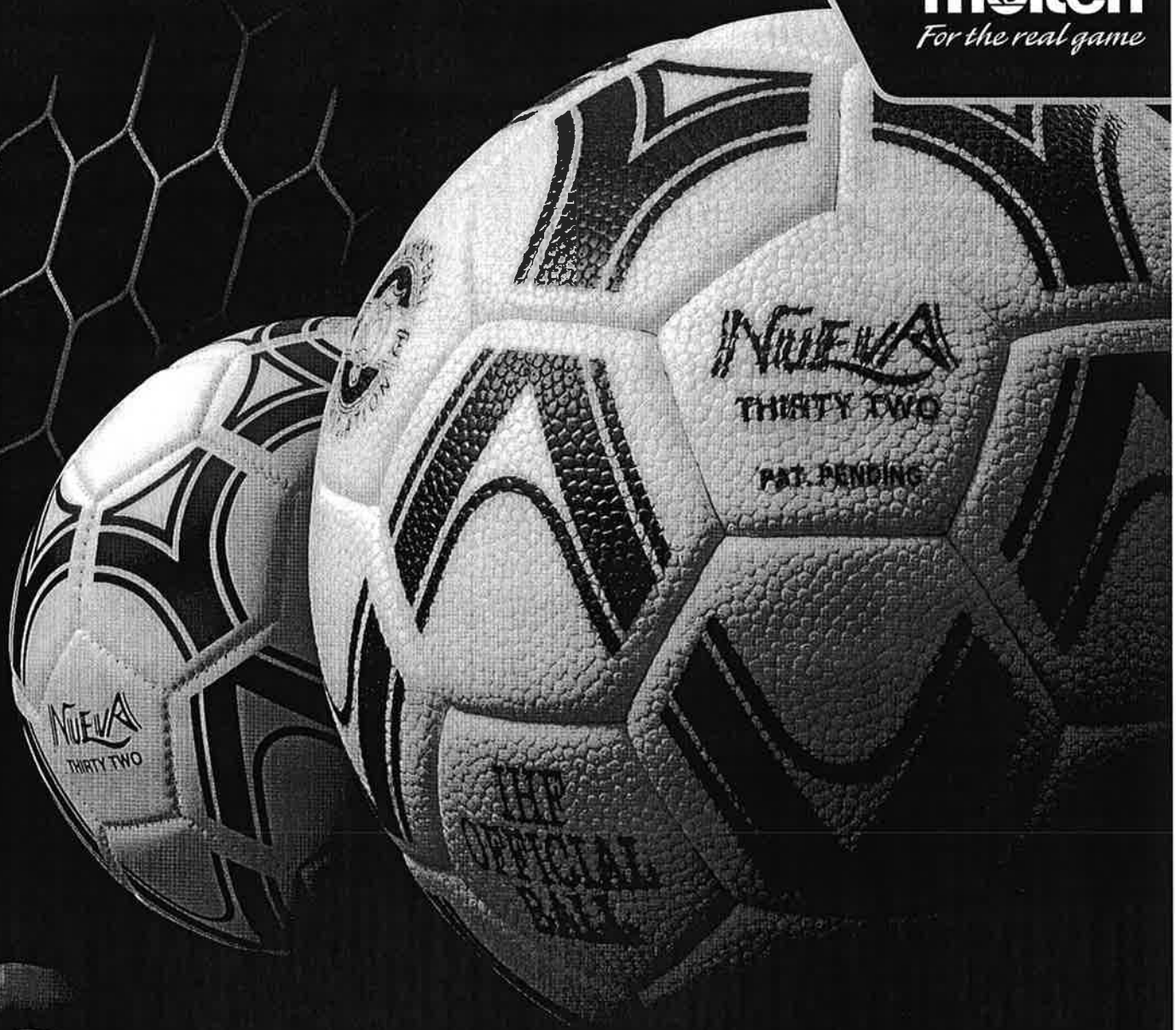
[表紙写真：全国高校選手権大会女子優勝の四天王寺高校・水田選手：写真提供・スポーツイベント社]

財団法人 日本ハンドボール協会

<http://www.handball.jp/>



**molten**<sup>®</sup>  
For the real game



# For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

日本リーグ唯一の公式試合球  
全日本実業団連盟主催大会  
唯一の公式試合球

H312 ヌエバ **国際公認球** | **検定球**

強い人工皮革、3号球、ラテックスチューブ

H212 ヌエバ **国際公認球** | **検定球**

強い人工皮革、2号球、ラテックスチューブ



[www.molten.co.jp](http://www.molten.co.jp)

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7

# We can change ! 競技



(財)日本ハンドボール協会常務理事 (競技本部長) 江成 元伸

オバマ・アメリカ大統領の言葉を借りれば、日本ハンドボール界は今、「We can change ! 日本ハンドボール」と変わらなければなりません。キング牧師が「私には夢がある」と演説してから45年、大統領選挙を通じ訴え、「Yes, We can change !」のスローガンの元、その夢を実現させました。しかし、日本ハンドボール界にとっては「夢がある」は現実の課題です。オリンピックへの出場、世界で上位のポジションを獲得することは決して夢ではなく、現実のものにしなければならないのです。そのための「We can change ! 日本ハンドボール」です。同様に、日本ハンドボール界の「We can change !」は、日本ハンドボール各組織の変化です。競技運営部は競技の円滑な運営を図るために、毎年4月1日付けで各種の通達を出しています。平成21年度は4月の通達に加え、新たな「We can change ! 競技」の一環として、7月31日付けで「大会開催マニュアル」を協会のホームページに掲載しました。平成15年に、「大会開催マニュアル」を冊子体として発行して以来の改変であります。しかも、従来有料であった情報源を、いつでも、どこでも、誰でもが情報を共有することができ、しかも無料で手にすることができるものであります。今後は追補等に加え、大会開催マニュアルの改訂を行っていきます。ホームページに掲載する方式は冊子体で刊行した発行物と違い、常に最新の情報の共有をした上で各試合に臨めることとなります。

一方、平成21年度の競技運営部は基本方針として、日本選手権(仮称)実施を検討することを表明しました。現在、日本選手権に一番近い大会形式が全日本総合選手権です。しかし、全日本総合選手権は日本リーグ、インカレ、ジャパンオープン、日本協会推薦チームが出場する、いわゆる各カテゴリーチャンピオンズカップです。それを、日本協会の加盟団体である各都道府県協会選手権大会の優勝チームがブロック選手権に出場し、さらにその優勝チームを決める大会が日本選手権(仮称)構想です。勿論、出場できるチームは小・中学校を除く高校、大学、一般、日本リーグのすべてのチームとし、文字通りの日本一を決める大会として設定します。サッカーの天皇杯をイメージして頂ければ良いかと思えます。数年前にこの構想を提示しましたが、過密な大会スケジュール、競技運営の過重負担を理由に構想は実現しませんでした。しかし、ハンドボール界にあっての球界の活性化とは、大会数を増やすことであり、試合数を増やすことであると考えます。是非、都道府県協会の代表チームが日本一の栄冠を目指すこの大会の設置構想をご理解頂き、早急に実現させていきたいと思っています。

また、一般クラブと呼ばれるチームにとって、所属する団体は各都道府県協会だけです。その方式を、高校、大学、実連チームが都道府県協会と各連盟に所属するように、各クラブチームも各都道府県協会に所属し、さらに社会人連盟(仮称)に所属します。小学生、中学生、高体連に所属する高校生、高専体協に所属する高専生、学連に所属する大学生、そして日本リーグを除いた選手、チームはすべて社会人連盟(仮称)に所属するということです。従来のクラブチームを束ねている組織がある都道府県はそのまま社会人連盟と名称変更して頂き、組織化されていない都道府県については新設して頂き、リーグ戦を中心に競技を編成します。その各都道府県の優勝チームが現在開催されているジャパンオープン、クラブ選手権に出場するプレーオフ方式をとることで、年間の試合数の増加を狙っていきたく考えます。この試合数の増加は選手、チームの強化にもつながり、また愛好者のさらなる楽しみをも増加させるものと考えます。

今後、全国の皆様方のご意見を賜りながら、国体開催時の全国理事長会議、全国理事会、全国評議員会に諮り、年度内の組織化実現に向けて計画し、数年後の完成年度に向けて体制づくりを進めていく所存ですので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



男子：興南高等学校（沖縄県）が3年ぶり4度目の優勝

女子：四天王寺高等学校（大阪府）が13年ぶり2度目の優勝

■男子 優勝 興南高等学校（沖縄県）※3年ぶり4度目  
準優勝 北陸高等学校（福井県）  
第3位 愛知高等学校（愛知県）  
祐誠高等学校（福岡県）

■女子 優勝 四天王寺高等学校（大阪府）※13年ぶり2度目  
準優勝 名古屋経済大学市邨高等学校（愛知県）  
第3位 京都府立洛北高等学校（京都府）  
夙川学院高等学校（兵庫県）

## 総評

京都府高体連ハンドボール専門部委員長 國府 功

2009 近畿まほろば総体は、「君が今 歴史の新たなページを創る」のスローガンのもと、7月28日奈良市鴻ノ池陸上競技場で開かれた総開会式で幕を開けました。

ハンドボール競技は8月1日、京都府京田辺市の同志社女子大学新島記念講堂に全参加校の代表者を集め、(財)全国高体連ハンドボール専門部、河先修委員長の開会宣言により始まりました。

開会式におきましては、(財)全国高体連ハンドボール専門部、塩谷和雄部長のご挨拶に続き、開催地代表の府立田辺高校の男女主将による力強い選手宣誓など出場選手の意気込みが感じられました。

また、開会式終了後には全国高体連ハンドボール専門部創設60周年の記念式典も挙行されました。10回から50回までの出場校表彰やご協力いただいている企業の方々の表彰がなされ、記念すべき大会にふさわしい形で8月7日までの94試合の幕が切って落とされました。

8月2日、京都府宇治市の府立山城総合運動公園体育館(2面)、宇治市立西宇治公園西宇治体育館、同京田辺市の田辺中央体育館、同志社大学デイヴィス記念館(2面)の計4会場6コートで始まった競技は、一回戦の3試合が延長戦に突入するなど、初日から熱戦が続き、最後までどちらが勝つか予断を許さない試合が多く見られました。

男子は、選抜大会の覇者の北陸(福井県)、祐誠(福岡県)、愛知(愛知県)、選抜準優勝の興南(沖縄県)がベスト4に勝ち上がりましたが、準決勝を無難な形で勝ち上がった北陸と興南が選抜の決勝戦と同じ組み合わせで頂上決戦に挑みました。興南は、開始早々に6番又吉選手の豪快なカットインシュートや速攻、7番山田選手のミドルやロングシュートなど多彩な攻めと、北陸の早いパス回しを遮断する高いディフェンスなどで終始優位に試合を進め、栄冠を勝ち取りました。

北陸も13番の藤江選手の活躍により得点をあげるものの興南のそれにはかなわず、春・夏連覇の夢は消え去りました。

上位入賞こそかなわなかったもののスピードとテクニックを駆使した各チーム、選手のレベルは年々向上の傾向にあり、後の代表選手に名を連ねることも時間の問題と思われた大会でもありました。

女子は、選抜ベスト4の名経大市邨(愛知県)四天王寺(大阪府)、洛北(京都府)の3チームが順当に勝ち進んで準決勝に駒を進め、ノーシードながら勝ち進んだ夙川学院(兵庫県)を加えた4チームで栄冠を競い合いました。名経大市邨と夙川の準決勝は後半半ばまで1点を争うシーソーゲームとなりましたが、自力に勝る名経大市邨が得意のコンビプレーで勝利を収めました。四天王寺対洛北の準決勝も互角の戦いで好ゲームが展開されましたが、四天王寺は攻守にわたる活



躍を見せた19番角南(唯)のプレーなどで着々と追加点を奪いました。洛北もそれに負けじと9番角南(涼)が打ち合う中、姉妹対決を制した四天王寺に軍配が上がりました。

そして最終日、男子同様に春夏を制したい名経大市邨と前日の勝利の喜びを微塵にも見せない四天王寺の決勝戦は終始四天王寺がリードを奪い、完勝に近い形で勝利しました。

洛北の5連覇か? 名経大市邨の春夏連続優勝か? 虎視眈々と優勝を狙う四天王寺か? と話題の多かった女子のゲームも連日熱戦が展開され、見る者の興味をそそる大会でもありました。男子の興南(沖縄)、女子の四天王寺(大阪)の選手、役員の方皆さん本当におめでとうございます。

今大会は、京都府宇治市・京田辺市での開催でしたが、宿泊施設の諸事情により配宿が全て京都市となり、競技会場への移動に長い時間を要したり、十分な駐車場を準備できなかったため中型以上のバスでの来場をお断りしたり、また、空

調設備の不十分な会場があったりと、多くのチーム関係者や応援の方々にも多大なご不便やご迷惑をお掛けしたことを心よりお詫び申し上げます。おかげをもちまして大会7日間、心配された新型インフルエンザの感染や大きな混乱もなく、無事終了することができました。これもひとえに本大会を支えていただきました(財)日本ハンドボール協会、(財)全国高体連ハンドボール専門部、宇治市、京田辺市、京都府実行委員会及び多くの大会役員・補助員・選手・監督・保護者・ハンドボール関係者の皆様のお力と、心より感謝申し上げます。

最後になりますが、来年の全国高校総体(美ら島沖縄総体2010)は沖縄県浦添市・八重瀬町で開催されます。男子の興南高校が地元での2連覇を狙うなど話題も多く、今年以上に熱い戦いが繰り広げられることを期待して総評といたします。

## 男子優勝チームの声

## 興南高等学校(沖縄県)

### 感謝

興南高等学校ハンドボール部監督 黒島 宣昭

平成21年8月1日から7日まで、京都府の宇治市、京田辺市で開催されました高校生にとって最大のスポーツの祭典である全国高等学校総合体育大会、高松宮記念杯第60回全日本高等学校ハンドボール選手権大会において、3年ぶり4回目の優勝をすることができ、大変に嬉しく思います。3月の全国選抜大会決勝での敗戦から「全国総体でのリベンジ」を目標として頑張ってきました。あの敗戦は、私自身はもちろん、選手達にも、大きな刺激になりましたし、チーム戦力を改めて見直すことが出来たことが良い結果に繋がったと思います。

振り返れば、7月2日に組み合わせが決まり、かなり厳しい戦いになるのではないかと予想をしていました。案の定、2回戦・3回戦では、選抜大会でも対戦し苦戦をした札幌真栄(北海道)と富岡(群馬)との戦いで、粘り強いチームであり、最後まで気の抜けない試合展開でありました。4回戦の瓊浦(長崎)は、九州大会でも対戦していて互いに戦術を

知っていることで苦戦をしました。準決勝の愛知(愛知)は、大型GKに、スピード・パワーのある選手が多く得点力の高い怖いチームでありました。しかしながら、ディフェンスが上手く機能しての守り勝ちであったと思います。さて決勝ですが、全国選抜での顔合わせで北陸(福井)との対戦。「春のリベンジ」に選手が燃えていました。ミーティングでは「ディフェンスでしっかり守ることを強調して「楽しくプレイをしてこい」と送り出しました。最高の舞台で、最高のプレイ、最高のゲームができましたし、選手14人全員がコートに立つことができたことに大変に嬉しく思います。今大会での大きな勝因は、チームの「和」、ディフェンスの「集中力」であったと思います。

最後になりますが、小学校・中学校の指導者の方々が、手塩に賭けて育ててくれた素晴らしい選手達にめぐり逢えたことに、とても感謝しています。県ハンドボール協会はもちろん、学校関係者、さらに父母会や後援会・OB会の力強いサ

ポートがあったからこそ成し得た結果だと思っていますし感謝しています。今後とも「感謝の気持ち」を忘れずに、自惚

れず、謙虚な気持ちを忘れずに、これからも日々努力していきたいと思っています。

写真提供・スポーツイベント社



女子優勝チームの声

## 四天王寺高等学校 (大阪府)

### 2009 近畿まほろば総体に優勝して

四天王寺高等学校ハンドボール部監督 繁田 順子

応援席からのカウントダウンがはっきり聞こえる。5・4・3・2・1。やったあ！コート上で選手達が喜び抱き合っている。控え選手やOG達もかけ寄り歓喜の渦。ベンチでコーチとガッチリ握手。

2009年8月7日。近畿まほろば総体で優勝させて頂くことができ感謝の気持ちで一杯です。微力な私達がこのような結果を残せたのも偏に学校関係者、大阪ハンドボール協会及び高体連、中体連の先生方、保護者やOG、そして、誌面では書き切れない程沢山のお世話になった方々のお陰と厚く御礼申し上げます。

大会2週間前。チームは最悪どん底状態。何をしてもうまくいかず、焦るは気ばかり。つるイライラを抑え選手には多くを求めず防御の強化に徹した。勿論GKも含め何度も基本を繰り返し、確認し大会に臨んだ。大会では出だし緊張

で動きもぎこちなくもどかしい思いをしたが、試合を重ねるごとに練習してきたねばり強い守りが見られるようになり、リズムよく攻撃につなぐことができた。準決、決勝とも百戦錬磨の強豪チームではあるが胸を借りるつもりでチャレンジしよう、チーム一丸となって全員ハンドで取り組もう、という気持ちがあるままプレーに表れ結果に繋がった。27名の部員達へ「ありがとう」。

“君が今 歴史の新たなページを創る”のスローガンのもと開催された60回という記念大会に全国のハンドボーラーと共に歴史の新たなページを創ることができ感慨無量です。

しかし、この結果に決しておごることなく更なる努力を重ねてまいります。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

写真提供・スポーツイベント社



## 戦評

## 【男子】

## ▼準決勝

## 北陸 37 (20-14, 17-15) 29 祐誠

開始早々、祐誠8番松林の速攻で先取点。北陸も13番藤江の速攻で同点とする。祐誠GK12番川原の好セーブと10番平の速攻・サイドで一進一退の攻防となる。10分過ぎ、北陸の4番杉本の速攻、スカイプレーで優位に進めるが、祐誠も両サイドの得点で粘る。北陸13番藤江のプレーからの連続得点で北陸が6点リードで前半終了。

後半、祐誠の速攻・サイドで10分までに2点差まで追い上げる。その後、一進一退の攻防が続くが、北陸のポスト・サイドシュートを守りきれず、終盤突き放された。祐誠の健闘が光る好ゲームであった。

## 興南 30 (17-7, 13-14) 21 愛知

立ち上がり愛知が2点を先取するも、すかさず興南が反撃。8点を連取し、一気に流れを引き寄せた。ここから愛知もGK石河の好守と鋭いミドルシュートで挽回を図るが、興南の高い位置でのディフェンスを攻めめぐみ、連続して得点を奪うことができず、点差をつめることができない。一進一退の攻防が続く、17対7で興南がリードして前半を終了した。

後半に入っても愛知は興南ディフェンスを崩すことができず、ドリブルカットからの速攻など興南の速い攻めについていけず得点差を広げられてしまう。興南は最後まで相手に持ち味を出させず、終始自分たちのペースで試合を運んだ。運動量が豊富で積極的なディフェンスが功を奏した興南会心の一戦であった。

## ▼決勝

## 興南 43 (21-10, 22-17) 27 北陸

今春の選抜大会と同じ顔合わせになった一戦、共に高い個人技を持った攻撃型のチームだけに激しい点の取り合いを予感させる。

先手を取ったのは興南。嘉数のサイドシュートを皮切りに上里の巧みなステップシュートなどで10分までに7対2と5点をリードする。ここで北陸はタイムアウトを取る。興南の高い位置でのディフェンスに対し、速い動きの攻撃に切り換える。ここから両チームの激しい攻防が繰り広げられる。しかし着実に得点を重ねた興南が21対10と大きくリードして前半を終了する。

後半に入り、北陸は平子を中心に果敢に攻撃に出る。一方興南も山田のミドルなどで応戦、前半にも増して激しい攻め合いとなる。しかしここでも要所で速攻が出た興南に軍配が上がる。更に点差を広げ、43対27で興南が勝利し、春の雪辱を果たした。

点差はついたものの試合を通して攻撃の姿勢を崩さず、す

ばらしいパフォーマンスを見せてくれた両チームのプレーヤーに拍手を送りたい。

## 【女子】

## ▼準決勝

## 名経大市邨 39 (16-16, 23-10) 26 夙川学院

夙川が開始早々カットインで先制すると、市邨はエース加藤(夕)のフェイントからのシュートで同点とする。その後も加藤(夕)のロング・7mで5対2とし、試合の主導権をつかんだかに見えたが、夙川も一対一、サイドシュートで粘り、14分30秒に8対8の同点に追いついた。その後、両チームゴールキーパーの好セーブや、市邨加藤(夕)・夙川渡辺のロングなどで、見ごたえのある攻防が続く、16対16で前半を終了した。

後半、市邨は加藤(夕)のロング、加藤(瑠)のポストシュートなどで8分15秒には5点リードをする。その後も市邨は多彩な攻めにスピードに乗った速攻を交えて得点を重ね、勝負を決定付けた。

## 四天王寺 25 (14-13, 11-8) 21 洛北

前半3分からのポストをからめた早い攻めで3点を連取した洛北が一步抜け出したかに見えたが、四天王寺も角南唯のミドルシュートと村尾の速攻などで10分に同点に追いつく。その後、一進一退の攻防が続くが、16分中山のロングシュートをきっかけに洛北が再び点差を広げる。しかし、四天王寺も粘り強く応戦し、28分に同点とすると、終了直前、鮮やかなコンビプレーが決まり、ついに逆転する。

後半、早く追いつきたい洛北であったが、四天王寺の固い守りに遭い、思うように得点できない。6分に7mTで同点となるが、その後も四天王寺が常にリードする展開となる。18分に一度は洛北が20対20と追いつくが、すかさず四天王寺は3点を連取する。残り時間、洛北も必死の攻撃を行うが、四天王寺GK黒田の好セーブもあり、追いつくことができないままタイムアップのブザーが鳴った。

## ▼決勝

## 四天王寺 32 (14-9, 18-13) 22 名経大市邨

いきなり角南や村尾らの3連続ゴールと気を吐いた四天王寺は、竹下のポストプレーなどで徐々にリズムを掴みたいが、市邨もセンター加藤を中心にした攻撃で反撃に出る。四天王寺のGK黒田と市邨のGK望月の好セーブが目立ち、両チーム共、要所での得点を阻まれ、前半を14対9と四天王寺リードで折り返す。

後半、市邨は藤村、宮地らの速攻で、途中一点差に迫るが四天王寺の前のサイドシュートなどで徐々に点差を広げ、終盤更に加点し、追いつがる市邨を一気に突き放した。





